

## 池田成諒 スポーツテック会社起業

筑波大学

体育専門学群卒

### 学習時代の総括

体育専門学群でコーチング論・トレーニング学領域を専攻し、GPA3.94/4.3 という優秀な成績を収めました。特に「運動適応生理学」「スポーツバイオメカニクス」に力を入れ、これらの科目で得た知識は現在の競技生活にも大きく活かされています。

卒業論文では「スレッド走が加速能力に及ぼす即時的効果について」というテーマで研究を行い、2023 年度日本スプリント学会にて大学生唯一の登壇発表を果たしました。この経験は、競技と学術の両面から陸上競技を捉える視点を養うきっかけとなりました。

課外活動では陸上競技部短距離障害ブロックに所属し、日本インカレでの優勝や長崎県記録の保持、グランプリ大会での 2 度の入賞など、目覚ましい成果を上げました。特に、100m で 10.31 秒という自己ベストを記録したことは、私の競技人生における大きな転機となりました。

また、オーストラリアのシドニーへの 1 ヶ月間の遠征や、国際的に権威のあるレースへの出場など、グローバルな経験を積むことができました。特に、世界大会で入賞するような選手たちと共にトレーニングを行ったことで、競技への取り組み方に確証を得るとともに、リスクを取ってチャレンジすることの重要性を認識しました。

奨学金は主に遠征費に充当し、年間 150 万円以上必要な遠征費の一部として毎月 7 万円を活用させていただきました。この支援のおかげで、経済的な不安を感じることなく競技に専念することができました。

### 現状

現在は、VICSS 株式会社の代表取締役社長として、陸上競技選手としての活動とアプリ開発・運営を両立しています。2024 年 4 月に会社を設立し、選手としての所属やスポンサー企業の獲得、そして革新的なアプリ「NutrAI」の開発に取り組んでいます。

「NutrAI」は、トレーニング・管理栄養・AI を組み合わせた画期的なアプリで、現在は一般ユーザー向けのリリース準備とフィットネスジムとの契約交渉を進めています。この過程で、アプリ開発や運営に関する幅広いスキルと知識を獲得し、競技スポーツの社会的意義や貢献可能性についての理解も深めました。

しかし、陸上競技選手として、また起業家としても初めての経験が多く、完璧を求めすぎずに適度な妥協点を見出すことに苦心しています。この課題に対しては、多角的な視点から物事を捉え、柔軟に解決策を見出すよう心がけています。

社会貢献活動としては、2024 年 8 月に開催した島原スプリント教室の売り上げ全額を、日清カップに参加する県内の小学生陸上クラブへの激励金として寄付しました。

## 志

短期的な目標として、日本選手権で 3 位以内に入賞し、日本代表として世界陸上やアジア大会に出場することを目指しています。特に、リレーでのメダル獲得と 100m での決勝進出を具体的な目標としています。また、2 年以内に競技活動の拠点を米国に移し、プロチームに加入することも視野に入れていきます。

スキルアップの面では、世界最先端のトレーニング機器「SPRINT2」を導入し、加速局面の課題解決に取り組んでいます。2025 年までに 100m を 10.0 秒台で走ることを目標とし、最大疾走速度を現在の 11.49m/s から 11.60m/s 以上に高めることを数値目標としています。

長期的には、100m でのオリンピック・世界陸上でのメダル獲得、そしてリレーでのオリンピックチャンピオンを目指しています。競技引退後は、自身の経験を活かし、ジュニアアスリート支援のような取り組みを会社を通じて行いたいと考えております。

これらの目標達成に向けて、日々のトレーニングを数値化・可視化し、科学的なアプローチで改善を重ねていきます。また、適切なタイミングで海外への拠点移動も検討し、新たな刺激と成長の機会を得たいと考えています。

## おわりに

給付型奨学金のサポートにより、世界中の多様な価値観に触れ、自身の可能性を広げることができました。特に、ステレオタイプを打破し、新たな視点で物事を捉える力を養えたことは、私の人生において最も重要な経験となりました。

この経験を糧に、競技生活を通じて自己の限界に挑戦し続けるとともに、起業家として社会に新たな価値を提供していきたいと考えています。そして将来的には、次世代のアスリートたちに同様の機会を提供できるよう、努力を重ねてまいります。